第５１号

長崎県公立小中学校事務職員研究会

会報　長事研

対馬市立東部中学校内
発行責任者　上 戸 健
2012（平成24年）年２月６日発行

第１２回長事研セミナー開催される！

今年で１２回目を迎える長事研セミナーが、１１月１８日（金）佐世保市のアルカスSASEBOで開催されました。参加者は、１３０余名と例年に比べて少なかったものの、大変有意義なセミナーとなりました。開会式には、佐世保市教育長　永元太郎様にもご出席いただきました。そして、永元様からは、学校事務職員及び長事研に対して励ましのお言葉もいただきました。今回のセミナーは、研究報告として、県内各地の事務職員の日ごろの「頑張り」を紹介することで今後の実践の一助となればと考え「事務だより」の紹介をしました。そして、講演は、現長崎女子短期大学教授で、長崎県子ども政策局長をはじめ要職を歴任された浦川末子先生をお招きし、今の子ども達が抱えている問題について「危機に直面する子どもたち」と題してご講演をいただきました。先生の実践を踏まえたお話に感銘を受けたとともに、先生の子ども達に対する熱い思いが伝わってきて大変意味深いご講演でした。また、参加者の皆さん方々にも大変好評でした。今回の会報は、浦川先生の講演の概要を中心にお伝えします。

第１２回長事研セミナー講演　（概要）
演題　≪危機に直面する子どもたち≫
～～家族の絆・地域の絆の回復を～
講師　長崎女子短期大学教授　　浦川末子　先生

（まず「元校長という立場から、学校事務職員の方々には学校経営を支えるという視点でさらなる頑張りを期待しています。」と言う事務職員に対するエールから始まりました。）

教育の現場から行政機関に異動したときは、それぞれの立場があるから仕方がない面もありますが、行政の流れに戸惑うことが多く、校長としての自尊心もずたずたになりましたが、子どもたちの問題をライフワークとしてここまでやってきました。このたびの大震災では、子どもたちも大きな心の傷を負っています。そのような中で、私たちは過ごしているのです。

内閣府が出した資料で「自分の居場所がなく孤独である」と回答した子どもたちが、他の国々と比べて大変高い割合を示しています。このような状況を作り出した大人たちの責任はどこにあるのでしょうか。また、知らない人に対する手助けの経験が日本人は大変少ないというもう一つのデータもあります。そのことは、子どもたちの前で見てみない振りをする大人たちの姿があるのではないか。その姿を見て子どもたちはどのように感じるのか、大変心配です。また、私は、子どもたちはその周りの大人たちが関わりながら育てることが大事だと思っていますが、調査の中で、家族以外の人と交流のない人の割合が多いという報告もあります。親子関係の中だけで育つ子どもたちがどのように成長していくのか。そして、そのような状況の中で自分の居場所がなく孤独であると感じている子どもたちが多い状況を大人たちはどう考えるのか。そして、高校生の規範意識が低下しているとの指摘もありました。大変重要な問題です。子どもたちの悲鳴が聞こえるようです。

長崎では、平成１４年度から１９年度にかけて、教育現場をはじめいろいろな機関で、規範意識の向上に努めてきました。その甲斐あって、青少年の不良行為は少なくなったと言われました。そんなときに、ある精神科の先生から、「いろんな問題を抱えて相談に来る親子は増えているよ。」と言われたことがあります。私は実践家として言えることは、教育は子どもたちが病んでいくのを予防する機能を持っているということです。そして実践を積み重ねる中で、ある仮説をたててみました。それは、小さい頃の親子関係を大切にしていくことが重要であるということです。学校では、満６歳になった子どもたちを預かり教育していくのだけれど、子どもたちと関わっていく中で、幼少頃から小学校に就学するまでの間に多くの問題を抱えていることに気付いたのです。すべての大人や保護者に伝えたいことは、０歳～３歳までの親子関係を大事にしていただきたい。そして、そのための子育て支援が出来る長崎県にしていきたいと思っています。

最近の保育関係の雑誌に、抱きしめられることを嫌がる子どもや、子どもを抱き締めるのが気持ち悪いと思う親も出てきたという記事がありました。愛するということが分からない親がいるということだと思います。R.A.スピッツの子どもの追跡調査の結果として次のように述べています。「子どもは、栄養と衛生の不足で死ぬのではない。情緒的な肌のふれあい（抱かれる）の欠乏によって死ぬのです。３歳の子どもにとって良い母親とは栄養や衛生について知識が豊富な母親ではない。非行歴があっても、子どもとのつきあいにたっぷり時間をとってくれる母親である。」子どもは柔らかい肌の温もりを欲しているのです。そして、一番信頼できる人の表情を見て態度決定をするのだと言われています。子どもたちにとって、とても大切な母親を元気にする社会を作らなければならないと思います。しかし、現代は、今までに身近に子育てをしている人を見たり、小さな兄弟のお世話をしたりなどの経験がない母親が多く、特に専業主婦は、地域の中で孤立しています。そのような母親を公費で支援できないかと子ども政策局時代に新規事業を行いました。しかし、なかなか浸透しませんでした。子育ては母親がしなければという風土が、今、

日本にはあるのかも知れません。また、母親の育児軽減のための労働時間の軽減策など考えたがなかなか上手くいきませんでした。行政が動くことも重要ですが、大事のことは、幼児期に母親や周りの人々が子どもとの信頼関係を築くこと「子どもの心に住んでくれる人」も作ることが大切である。それがあって、子どもは自立できるものです。

では、信頼関係を築くために、子どもと向き合うということはどのようなことなのでしょうか。それは、子どもに、お母さんに守られているのだと実感させることです。それがないと子どもは、自分の中にその不安を閉じ込めてしまいます。そのような状態で子どもは育っていくのです。その環境を作っているのが大人たちです。そして、子どもたちは、別人格へと育っていくと言われています。子どもたちのネガティブな面を表現できる社会を創っていかなければならなりません。そのことが、子どもと向き合うということではないでしょうか。少年事件を起こした子どもたちは、「毎日の親子関係の中で、ゆっくりゆっくり別人格へ育てられた」と事件の総括の中で言われています。そこまで子どもたちは追い詰められているのです。たった一人でいいから信頼できる大人と出会ってさえいれば、犯罪を起こすことはなかったのではないか。子どもたちにそういう信頼できる大人を、つくってあげられなかったのは大人の責任だと言えます。人との付き合いを避けているのではなく、すべての人たちの力を借りて子育てをしていかなければならないと思います。それが「ココロねっこ」ではないでしょうか。

新聞の調査で、子どもたちに「心のブレーキになる人は、誰ですか」という問いに、７割の子どもたちが「父母と家族」だと答えています。父母と家族に子どもたちは、思いを託しています。だから私は、「子どもに寄り添ってください」と申し上げたい。子どもの中にどっしりと存在感のある母親、そして、どんな時でも「私を見捨てないお母さん」という関係を築かなければなりません。教育関係者として、残していけることは、「信頼という関係性」を築いてあげることではないかと考えています。　少年事件に関わっていく中でたどり着いたのは、大人たちが変われば少年犯罪は「０になる」ということです。

では、教育が何をしなければならないか、それは、人間としての力を授けてほしいということです。「教えること、鍛えること」家庭教育の中では、「人間としての木の根っこを育てる」これは、親の生きざま、考え方に学ぶ事だとか考えます。そして、次に地域の問題です。昔会津藩には「会津の子どもは、会津が育てる。」ということがばありました。日本には、躾や鍛錬は、よほどのことがない限り親には難しい。だからこそ子どもは、社会で育てるという子宝思想があると思います。「かわいい子どもには旅をさせよ」「他人の飯を食べさせろ」等の諺に表れていています。

私がたどり着いた結論は、マズローの欲求５段階説にあります。人間の欲求は、自己実現に向けて第一段階の「生理的現要求（衣食住）」から一段ずつ確実に学んでいかなければなりません。最初の「生理的現要求」と次の段階の「安全・安心欲求」を親子・家族関係として位置づけ、その親子・家族の絆として大事にしていきたい。これがあれば、挫折があっても「自己実現」が可能ではないかと思います。そして、そのような人は、社会貢献を行うようになると言われています。そうなれば、素晴らしい社会が実現するのではないでしょうか。みなさんは、子どもに関わるポジションにいます。「私が関わらなければ」という気持ちを持っていただき、二度と不幸な少年犯罪が起こらないように子どもたちの支援者になってもらいたいと願っています。

＜講演に関する参加者の声 ＞

・貴重な講演を聞いて、今後に生かしていきたい。
・講演がとてもよかった。もっとお話を聞きたかった。

≪今後の日程≫

・第３回理事会評議員会
　　２月２４日　長崎市にて

＊長事研やセミナー等に対する御意見ご要望がありましたら、各支部長さんをとおしておよせください。今回の理事会で話し合いたいと考えています。今後の長事研活動の参考にします。会員のみなさんの多くの声をお待ちしています。

◇　◇　◇　◇　◇　◇　◇　◇　◇　◇　◇　◇　◇

＜会報連絡先＞長崎市立三和中学校　南部省吾

TEL095-882-2530　FAX095-882-1561